

令和5年度新潟県原子力防災訓練 実施結果

柏崎市危機管理部防災・原子力課

1 概要

国、地方公共団体、原子力事業者等が合同で実施する国の原子力総合防災訓練と一体となって実施した。

2 目的

- (1) 柏崎市地域防災計画（原子力災害対策編）に基づき、国、県、関係市町村及び防災関係機関の相互の連携による原子力災害時の体制・対応を確認するとともに、防災業務従事者の対応力の向上・習熟を図る。
- (2) 住民参加により、原子力災害時の防護措置に対する理解の向上を図るとともに、訓練の結果を検証し、住民避難における問題点や課題を抽出し、現行の計画の見直しや具体化につなげる。

3 実施時期

令和5年（2023年）	10月27日（金）	午後2時から午後6時まで
	10月28日（土）	午前7時30分から午後6時30分まで
	10月29日（日）	午前8時から午後3時まで
	10月31日（火）	午後3時から午後5時まで
	11月1日（水）	午後3時から午後5時まで
	11月8日（水）	午後1時45分から午後3時まで
	11月9日（木）	午後1時45分から午後3時まで

4 主催及び主管

主催：新潟県 主管：柏崎市防災会議

5 参加機関

国（内閣官房、内閣府、原子力規制委員会等）、新潟県、柏崎市、県内市町村、関係機関（自衛隊、海上保安庁等）、柏崎市消防団、東京電力ホールディングス株式会社 ほか

6 訓練想定

柏崎市、刈羽村等で震度6強の地震が発生し、唯一運転中の柏崎刈羽原子力発電所7号機において、原子炉が自動停止。その後、炉心冷却機能の一部が喪失し施設敷地緊急事態となり、炉心冷却機能が喪失し全面緊急事態となる。その後、炉心が損傷し、放射性物質が放出され、一時移転が必要な空間放射線量の上昇が認められた状況になる。

7 訓練項目

10月27日（金）、28日（土）

- (1) 柏崎市災害対策本部運営訓練（市役所3階 災害対策本部会議室）
- (2) オフサイトセンター運営訓練（柏崎刈羽原子力防災センター）
- (3) 緊急時通信連絡訓練（市役所3階 防災・原子力課執務室）

10月31日、11月1日、8日、9日

- (4) 学校等における保護者への引渡し訓練（小学校・保育園）

10月31日（火） P A Z : はらまち保育園

11月 1日（水） U P Z : 高田保育園

11月 8日（水） P A Z : 榎原小学校

11月 9日（木） U P Z : 新道小学校

10月28日（土）

- (5) P A Z内住民の船舶・ヘリ・バスによる避難訓練
西中通地区（船舶）、中通地区（ヘリ（中止）・バス）、二田地区（ヘリ・バス）
- (6) U P Z内住民の屋内退避訓練（市内U P Z内地区の全住民対象）

10月28日（土）、29日（日）

- (7) U P Z内住民のバス及び自家用車による一時移転訓練（高田地区）
- (8) 安定ヨウ素剤緊急配布訓練（(5)、(7)のバス避難集合場所）
- (9) スクリーニング・簡易除染訓練（上越市 直江津港南ふ頭緑地公園）
- (10) 広報活動訓練（防災行政無線及び緊急速報メール・エリアメール、ホームページ、ソーシャルメディア（フェイスブック・X（旧ツイッター）・LINE・Yahoo防災アプリ）（市役所3階 防災情報通信室、防災・原子力課執務室）

※エリアメール、Yahoo 防災アプリは10月28日（土）のみ実施

8 訓練スケジュール

【緊急事態区分：警戒事態（AL）、施設敷地緊急事態（SE）、全面緊急事態（GE）、OIL（放射性物質放出後）】

		14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00	17:30	18:00	18:15												
10月27日 (金曜日)	緊急事態区分[EAL]	AL、SE									※スキップ												
	船橋市災害対策本部運営訓練	訓練																					
	オフサイトセンター運営訓練	訓練																					
緊急時通信連絡訓練		← 随時通信体制保持 →									●TV会議												
		8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00				
10月28日 (土曜日)	緊急事態区分[EAL]	SE、GE											※スキップ	SE、GE+OIL									
	船橋市災害対策本部運営訓練	訓練												訓練									
	オフサイトセンター運営訓練	訓練												訓練									
緊急時通信連絡訓練		← 随時通信体制保持 →											●TV会議	●TV会議									
		13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00	17:30												
10月31日 (火)	緊急事態区分[EAL]			AL		SE																	
	PAZ内の学校等における保護者への引渡し訓練（保育園）			●保護者へ迎えの要請 ●保護者へ引渡し		●引き渡せなかった児童園児を教職員引率のもとバスで避難																	
11月1日 (水)	緊急事態区分[EAL]			AL		SE		GE+OIL															
	UPZ内の学校等における保護者への引渡し訓練（保育園）			●保護者へ迎えの要請 ●保護者へ引渡し		●屋内避難 ●引き渡せなかった児童園児を教職員引率のもとバスで避難																	
11月8日 (水)	緊急事態区分[EAL]			AL		SE																	
	PAZ内の学校等における保護者への引渡し訓練（学校）			●保護者へ迎えの要請 ●保護者へ引渡し		●引き渡せなかった児童園児を教職員引率のもとバスで避難																	
11月9日 (木)	緊急事態区分[EAL]			AL		SE		GE+OIL															
	UPZ内の学校等における保護者への引渡し訓練（学校）			●保護者へ迎えの要請 ●保護者へ引渡し		●屋内避難 ●引き渡せなかった児童園児を教職員引率のもとバスで避難																	
		7:30	8:00	8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00	17:30	18:00
10月28日 (土)	PAZ内住民の船舶避難訓練【西中通地区】	●職員出動	●訓練住民の乗船・避難開始			●西江津港に到着・下船	●避難経路所到着	●避難所到着			●帰宅												
	PAZ内住民のヘリ・バス避難訓練【二田・中通地区】			●情報収集・伝達訓練（要配慮者の安否確認等）	●職員出動	●訓練住民の避難開始	●避難経路所到着	●避難所到着			●帰宅												
	安定ヨウ素剤緊急配布訓練	●職員出動	●バス避難集合場所に到着した方から順次配布																				
	UPZ内住民の屋内避難訓練【UPZ全地区】									●屋内避難訓練開始	●訓練終了												
	広報活動訓練	●防災行政無線放送（西中通地区限定：避難指示）				●防災行政無線放送（中通地区限定）				●防災行政無線放送（市内一斉：避難指示、屋内避難開始） ●緊急連絡メール・エリアメール送信 ●ホームページ公開、LINE、SNS、Yahoo防災アプリ													
		7:30	8:00	8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00	17:30	18:00
10月29日 (日)	UPZ内住民の一時移転訓練【高田地区】	●一時移転指示	●一時移転開始（自家用車）	●一時移転開始（バス）	●スグリーニングポイント到着	●避難経路所到着	●避難所到着			●帰宅													
	安定ヨウ素剤緊急配布訓練	●職員出動	●バス避難集合場所に到着した方から順次配布																				
	スクリーニング・簡易検査訓練					●スクリーニング・簡易検査訓練																	
	広報活動訓練	●防災行政無線放送（高田地区のみ：一時移転指示）																					

9 訓練概要

(1) 柏崎市災害対策本部訓練

新潟県災害対策本部運営訓練に併せて、国、県、市町村等の連携、手順の理解を重点としたシナリオ型による訓練を実施した。

1日目は地震が発生してから施設敷地緊急事態要避難者の避難が開始されるまで、2日目は全面緊急事態までを想定し、災害の初動対応や国・県とのTV会議による防護措置の決定、県総合防災情報システムを活用した県・市町村間の被害状況などの情報共有を実施した。



本部運営訓練の様子

○災害対策本部会議、TV会議等

- ▶ 柏崎市災害対策本部会議、原子力災害警戒本部会議、原子力災害対策本部会議
- ▶ 新潟県災害対策本部会議（TV会議）
 - ・施設敷地緊急事態における防護措置実施要領(案)の決定
 - ・施設敷地緊急事態の避難開始時期の決定
 - ・SE避難状況、全面緊急事態の防護措置の検討
- ▶ 原子力災害対策本部・第4回非常災害対策本部合同会議（国主催TV会議）
- ▶ 原子力災害合同対策協議会全体会議（国主催TV会議）

(2) オフサイトセンター運営訓練

オフサイトセンターからの要請に基づき、オフサイトセンター機能班として職員を派遣し、オフサイトセンターでの訓練に参加した。また、現地災害対策本部長となる副市長及び連絡員を派遣し、市現地対策本部を設置。オフサイトセンターで行われた原子力規制委員会・内閣府原子力事故現地合同対策本部及び現地事故対策連絡会議合同会議に出席、会議結果をZOOMで市原子力災害対策本部会議と共有した。

(3) 緊急時通信連絡訓練

国、新潟県災害対策本部、合同対策協議会及び関係市町村災害対策本部との原子力防災ネットワークを使用したTV会議を実施。また、国や県、電力事業者などの関係機関と緊急時の通報連絡方法を使った相互の通信連絡訓練を実施した。

(4) 学校等における保護者への引渡し訓練

PAZ及びUPZ内の学校等において、緊急時における児童園児の避難が円滑に行われるよう避難手順を確認するため、原子力災害時の保護者への引き渡しから引き渡せなかった児童等のバスによる避難訓練を実施した。



○訓練実施場所

- ▶ PAZ：榎原小学校、はらまち保育園
- ▶ UPZ：新道小学校、高田保育園

○訓練内容

- ▶ 保護者へ児童等の迎えを要請
- ▶ 迎えに来た保護者へ児童等の引渡し
- ▶ 避難時の安定ヨウ素剤の持ち出し
- ▶ 引渡しのできなかった児童等をバスに乗車させ、教職員等引率のもとバス避難

(5) PAZ内の住民避難訓練

地震との複合災害の発生を想定し、西中通、中通、二田地区において警戒事態から全面緊急事態での避難指示の発出に至るまでを想定した広域避難訓練を実施した。



○訓練実施場所

- ▶ 西中通地区（船舶避難）

バス避難集合場所に集合し、バスで柏崎中央海水浴場・柏崎港に向かい、海上自衛隊又は海上保安庁の船舶に乗船し、直江津港まで移動。直江津港から再びバスに乗り換えて避難先の妙高市に避難した。なお、海上自衛隊については、エアクッション型揚陸艇で、中央海水浴場から海上の輸送艦まで住民を輸送した。

避難経由所	妙高杉ノ原スキー場
避難所	妙高高原メッセ、妙高高原スポーツ公園

- ▶ 中通地区（バス避難）

バス避難集合場所に集合し、バスにより避難先の湯沢町まで避難した。

※大型ヘリコプターでの湯沢町までの避難を計画していたが、悪天候のため中止。

避難経由所	湯沢カルチャーセンター
避難所	旧土樽小学校、湯沢町公民館

▶ 二田地区（ヘリコプター・バス避難）

バス避難集合場所に集合し、バス及びヘリコプター2機により、避難先の村上市まで避難した。ヘリコプターは西山総合グラウンドから三条・燕総合グラウンド（三条市）まで飛行、バスに乗り換えて村上市まで避難した。

避難経由所	パルパーク神林
避難所	神林農村環境改善センター、村上農村環境改善センター

○訓練内容

- ▶ 住民は、防災行政無線及びエリアメール等による避難指示を契機にバス避難集合場所に集合し、バス避難支援隊による受付及び安定ヨウ素剤の配布を受けた後、バス等により避難経由所を経由して避難所への広域避難を行った。避難経由所では、広域避難先遣隊が、避難所では受入先市町職員がそれぞれ受付を実施した。
- ▶ 各会場において、新潟県防災DXアプリの二次元コード（QRコード）を使ったスマートフォンによる受付を行った。参加者には、事前にアプリへの氏名などの避難者情報の登録を依頼し、訓練当日は参加者がスマートフォンで表示した二次元コードを管理用端末で読み取るだけで受付が可能となった。なお、スマートフォンによる受付が困難な参加者については、二次元コードが書かれた避難者カードを用意し、スマートフォン同様に管理用端末で読み取るだけで受付を通過できるようにし、受付の効率化・簡略化を図った。
- ▶ 住民避難の開始前に警戒事態、施設敷地緊急事態を想定し、中通、二田地区において避難行動要支援者の安否確認、福祉車両による避難訓練を併せて実施した。
- ▶ バス避難のほかに道路交通障害を想定した船舶避難や道路寸断による地区の孤立を想定したヘリコプターでの避難を行った。
- ▶ 各地区ともそれぞれ避難所を2か所用意し、避難経由所での振り分けを行った。
- ▶ 消防団による避難支援訓練（バス避難集合場所における避難者の誘導、交通整理）を行った。

(6) UPZ内住民の屋内退避訓練

防災行政無線等の指示により、各家庭で屋内退避訓練を実施した。

(7) UPZ内住民の一時移転訓練

放射性物質放出後の一時移転指示を想定したバス又は自家用車による広域避難訓練を実施した。



バス避難の様子

○訓練実施場所

▶ 高田地区

スクリーニングポイント	直江津港南ふ頭緑地公園
避難経由所	ユートピアくびき希望館
避難所	三和保健センター

○訓練内容

- ▶ 防災行政無線（高田地区限定放送）により、住民に一時移転を指示。住民は、放送を契機にバス又は自家用車により避難先（上越市）への避難を開始。避難経由所へ向かう途中のスクリーニングポイントにおいて、新潟県が行うスクリーニング・簡易除染訓練に参加。その後、避難経由所を経由して避難所に避難。避難経由所では、広域避難先遣隊が、避難所では受入先市職員がそれぞれ受付を実施した。
- ▶ 自家用車避難訓練は、参加者の自家用車を使い、それぞれの自宅から避難先までの一時移転訓練を実施した。
- ▶ 各会場において、新潟県防災DXアプリの二次元コード（QRコード）を使ったスマートフォンによる受付を行った。また、スクリーニングポイントでは車番認証システムにより、車のナンバーを読み取り、自動的にアプリに通過記録を反映させた。
- ▶ 消防団による避難支援訓練（バス避難集合場所における避難者の誘導、交通整理）を行った。

(8) 安定ヨウ素剤の緊急配布訓練（住民避難訓練・一時移転訓練と同時に実施）

バス避難集合場所での受付時に安定ヨウ素剤受取希望の有無、服用可否等を確認し、安定ヨウ素剤（代替品：あめ玉）を配布。なお、自家用車避難者に対しては県がスクリーニングポイントで配布した。

(9) スクリーニング・簡易除染訓練

一時移転訓練と併せ、スクリーニングポイント（直江津港南ふ頭緑地公園）において、県が実施する住民及び避難車両のスクリーニング及び簡易除染に住民が参加した。

(10) 広報活動訓練

○防災行政無線

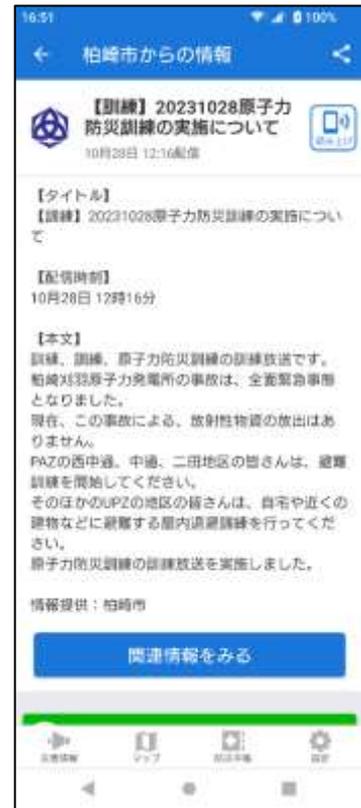
- ▶ 訓練事前告知放送（前日、当日）、訓練放送（P A Z 避難、U P Z 屋内退避指示、U P Z 一時移転指示）、屋内退避訓練終了放送を実施

○緊急速報メール・エリアメール

- ▶ 訓練放送（P A Z 避難、U P Z 屋内退避指示）を実施

○その他

- ▶ 市ホームページ、ツイッター、フェイスブックに訓練情報を掲載
- ▶ Y a h o o 防災アプリでの配信



10 訓練参加者等の主な感想・意見

(1) 災害対策本部運営訓練、オフサイトセンター運営訓練、緊急時通信連絡訓練

(参加職員)

- ▶ 今後は冬期間の積雪のある状況下など、より過酷な条件下のもとでの訓練も必要だと感じた。
- ▶ 担当部署による（部分的な）机上や実地訓練等の必要性を感じた。
- ▶ 災害時であるため、本部会議での発言内容をもっと簡潔にする必要がある。
- ▶ 県災害対策本部会議等において、発言者によってPAZを「ピーエーゼット」又は「パズ」と発言しており、主要な用語の読み方は統一しておいた方が良い。
- ▶ 県災害対策本部会議において、各部の状況報告が早口で聞き取れない所があった。テレビ会議のタイムラグも意識して、少しゆっくりと話す必要がある。
- ▶ 国、県との連携は問題なく行われ、実際の災害時においても意思疎通ができる体制が整っていることを実感した。
- ▶ オフサイトセンター運営訓練は、事前の要員研修・プレ訓練があり、用語の理解を深め、錬度が上がって本番も落ち着いて取り組めた。また、メンバーと顔を合わせるたびに連携も深まった。有事に向けた平時からの関係づくりも大事だと感じた。
- ▶ オフサイトセンターの機能班について、班によっては国・県からの要員が到着するまでの間、人員が手薄な班があった。早期に参集できる周辺自治体からの構成員を増やしたほうがよいと感じた。

(2) 学校等における保護者への引渡し訓練

- ▶ タイムスケジュールがある程度決まっていたので、保護者が早めに迎えに来ていた。実際に起きた場合、どのような対応になるかについて不安が多い。
- ▶ 今回の引渡し訓練では、保護者がわりと早く迎えに来たと思う。実際の災害時にはもっと時間がかかると思うし、バスでの避難児童が増えるのではないかと思う。
- ▶ 引渡し中止後に保護者が来られたときの対応はどのようにしたらよいのか。バスが来るまでの間であれば引渡しは可能なのか、それとも中止なのか。不明確な部分が多々ある。
- ▶ 地域住民、保育園・中学校との連携は必要ないのか。実際に起きたことを考えると、地域全体で行うことも必要なのではないか。
- ▶ 子を持つ職員の対応はどうなるのか。職場優先？家庭優先？
- ▶ 保護者の迎えの車による近場の渋滞の解消方法が課題
- ▶ 実際に訓練で動いてみるのが重要。紙面だけではやはり分からないことが多い。
- ▶ 市とどのように連携をするかが分かり、大変有意義だった。何年かに一度は継続して行う必要があると感じた。
- ▶ 勤務をしている職員も市内在住者は我が子を迎えに行く場合も出てくる。少ない人数でも落ち着いて児童を安全に避難誘導できるよう訓練は今後も必要である。
- ▶ 本当に原発事故が発生し、保護者の迎え車両が集中したときに、事故なく、保護者同

士がゆずり合い、駐車や歩行移動ができるのかどうか心配である。

- ▶ 子どもたちが安心して待てるように声を掛けることができた。
- ▶ 兄弟関係が同じバスに乗ったことで下の子が安心できていた。
- ▶ 事前に役割分担、やるべきことを確認していたため、手分けをして訓練にスムーズに取り組むことができて良かった。
- ▶ 避難バックの中に乳幼児のミルクやおやつ等の準備まで気づかなかったが、今回のことでそこまで確認することができて良かった。
- ▶ 待ち時間が長かったが、防災に関する紙芝居を読み退屈にならないようにできたのは良かった。
- ▶ 普段行事の時駐車場が混み合わないよう、玄関に入ってくる前にマイクで呼んでスムーズに引き渡しができる。
- ▶ 災害の際に小さいクラスは極力オムツがいいと思った。トイレ中の子たちは何時間もバスに乗ってられない。
- ▶ 子どもたちが訓練開始から1時間位待機するが、迎えを待つ間の水分補給について。今回は秋で暑さはないが、暑い時期は必要だと思うし、雨具を着せるのも暑い。
- ▶ 午前中や給食時など、他の時間帯での訓練はどうか。いろいろな時間で試すのもよいと思う。
- ▶ 実際に災害が起きたときに保護者に受け渡す時、子どもにくつをその都度履かせている時間がないのではないかと感じた。迎えが来ないとしても室内で外履きに履き替えていたほうがスムーズなのかもしれないと思う。
- ▶ トイレに連れていく、カラー帽子をかぶせるなど、園独自の細かな配慮は必要。
- ▶ 引き渡し受付とバスに乗車する子の避難口を分けたことで混乱とまちがいを避けられた。
- ▶ 放射性物質がなぜ怖いかなどの子どもに伝えることが難しいと思った。不安を感じる子どもたちにどのようにどの程度まで伝えるべきか？
- ▶ 各クラスで待機する時間が長く、周りの様子が見えなくて不安だった。もう少し園内の放送をこまめに入れてもらえると良かったと思う。

(3) P A Z ・ U P Z 住民避難訓練

(参加職員)

- ▶ 住民の受付・安定ヨウ素剤の配布対応は、1か所2～3人の職員配置では不足している。
- ▶ 無線対応等に気を取られ、住民の誘導など重要な業務が出来なかった。
- ▶ 二次元コード（QRコード）を事前に登録していた住民の受付はスムーズであった。一方でスマートフォンの通信環境などで上手く表示できない場合への対応に時間がかかる場面があった。また、管理用端末の台数が1か所1台では少ない。
- ▶ 船舶避難訓練（LCAC）において、待ち時間が多く、説明も不足していたため住民が不安を感じていた。

- ▶ 住民用マスク、筆記用具が不足していた。

(参加住民の主な意見 (他の意見は後述))

- ▶ 多くの人に参加してもらい、不具合があればその都度改善してほしい。
- ▶ 時間がかかり過ぎだと思った。
- ▶ QRコードよりマイナンバーカードを使用した方がよい。
- ▶ 人数確認と点呼をもっとはっきり案内した方がよい。
- ▶ 若い世代の訓練への参加が非常に少ないので、参加できるような仕組みを考えてもらいたい。
- ▶ 本当の災害時は今回の休日訓練のようにスムーズにはいかないと思う。平日に訓練してもよいのではないか。
- ▶ 高齢者のバスまでの移送をどうするか、いざという時にどうするか町内会で考える必要があると思います。
- ▶ 受付に時間がかかりすぎた。
- ▶ 職員のマンパワーが絶対的に足りない。不安を払拭するためには、もう少しきめ細やかな対応が必要であるため、人数を増やすなど日ごろからの対応をしてもらいたい。
- ▶ 足の不自由な人やお年寄りなど身体が思うように動かない人のことも考えた方がよい。
- ▶ 集合時間からバス出発まで長く待たされた。説明不足だった。
- ▶ 災害が発生して、自家用車で避難となった場合、高速インターで渋滞が発生するのではないか。
- ▶ スクリーニングポイントや避難経路所での案内・看板が不足していると感じた。道が分かりづらい。
- ▶ 万一の事故避難を想定してもっと大規模な取り組みをしたらどうかと思う。
- ▶ 訓練の流れが十分に周知できていないと思う。

11 訓練で見えた課題と対策

(1) 災害対策本部運営訓練、オフサイトセンター運営訓練、緊急時通信連絡訓練

・伝わりやすい・簡潔な言葉遣いについて

【課題】災害時の緊迫した状況であることを踏まえ、間違いを起こさない言葉遣い、明確で簡潔な報告を常に意識する必要がある。また、用語は読み方を統一し、間違いが起らないようにしておく必要がある。

【対策】原子力災害時に想定される報告事項や報告する際の留意点を整理し、訓練シナリオに反映しながら、訓練を重ねていくことで職員に意識付けていく。

・ **各部の個別訓練について**

【課題】 訓練は災害対策本部の対応が主となっている。災害への対応力の向上を図るため、各部の個別訓練を実施する必要がある。

【対策】 各部において初動対応の再確認を行うとともに具体的な災害の発生状況を設定し、本部運営訓練に併せて、各部での個別訓練の実施を検討する。

・ **継続した要員研修の実施について**

【課題】 オフサイトセンターに派遣する職員などに対する原子力災害に関する基礎的な知識や実際の活動に関する継続的な訓練が必要である。

【対策】 新潟県を通じて、オフサイトセンターの運営に関わる継続的な訓練又は研修の実施を求めていく。

(2) **学校等における保護者への引渡し訓練**

・ **継続した訓練について**

【課題】 原子力災害を想定した引渡し訓練を継続して行い、未実施の学校においても実施していく必要がある。

【対策】 まだ実施していない保育園・学校等に訓練への参加を呼びかけ、順次訓練を行っていく。

(3) **PAZ・UPZの住民避難（一時移転）訓練**

・ **バス避難集合場所等の対応職員の不足について**

【課題】 毎年、訓練に参加した職員から、1か所2～3人の職員では、対応人員が不足するとの意見があがる。

【対策】 人員には限りがあり、増員は難しいことから、受付業務を見直し、効率化・簡略化を進める。

・ **ICTの活用について**

【課題】 二次元コード（QRコード）を使った受付を行った。アプリに避難者情報を事前に登録しておく必要があり、事前の登録は各地区とも参加者の半数程度であった。受付業務においては、管理用端末で二次元コードを読み取るだけであり、受付時間の短縮・効率化が図られていた。しかし、避難者、受付者ともにスマートフォンを使用するため、電波状況により二次元コードを表示できない、読み取れても登録手続きができないといったトラブルがあった。また、事前登録方法に関する問い合わせも多くあった。

【対策】 二次元コードを使用した受付は、電波状況に左右されるなどの課題はあるが、受付自体の効率化は図られていた。導入した場合は、事前登録率を高めしていく必要があるが、アプリのインストールや事前登録のハードルは高いと

思われる。普及率の高いマイナンバーカードと組み合わせるなど、ICTの活用について更なる検討を要望する。

・ **訓練参加者への事前説明について**

【課題】参加者から、事前の説明が不足していたとの意見が複数寄せられている。

【対策】訓練参加者に対しては、町内会等を通じて資料の配布のみになってしまっていた。今後の訓練では、参加者を対象とした事前説明会の開催を検討する。

・ **訓練タイムスケジュールの見直しについて**

【課題】バス・船舶等で長い待ち時間が発生してしまっていた。

【対策】訓練のタイムスケジュール上、避けられないものを除いて、極力効率的なタイムスケジュールを検討する。また、待ち時間を活用した当日の訓練予定の説明や原子力防災に関する説明をできるように検討する。

・ **避難行動要支援者の避難訓練について**

【課題】避難行動要支援者の避難やバス避難集合場所までの移動が困難な高齢者の避難が不安との意見が多い。

【対策】避難行動要支援者等の避難については、地域の方の協力が必要不可欠であることから、避難行動要支援者等の避難について、自主防災組織や町内会、近隣住民を巻き込んだ訓練を計画する。また、可能な限り、避難対象となる方の訓練参加を呼び掛けていく。

・ **各会場の案内・案内看板の不足について**

【課題】訓練会場（スクリーニングポイント、避難経路所、避難所）への案内・案内看板の不足や道が分かりづらいとの意見がある。

【対策】自家用車での避難が基本となるため、実災害に備えた避難経路所等への案内看板の整備を新潟県に要望していく。

・ **船舶・ヘリ避難訓練について**

【課題】関係機関の協力により、船舶・ヘリコプターでの避難訓練を実施した。複数の避難方法を確保することは重要であることから、今後も様々な状況を想定した避難訓練を実施し、関係機関との連携を高めていく必要がある。

【対策】バス以外の方法による避難訓練の実施を新潟県に要望していく。

・ **自家用車避難訓練について**

【課題】昨年度訓練よりも参加台数を増やして（10台→23台）訓練を実施した。

自家用車での避難を基本としている中で、避難経路の渋滞を心配する住民の

声があることから、自家用車での避難訓練を継続して行っていくとともに訓練の規模を拡大していく必要がある。

【対策】バスによる避難訓練と並行して、引き続き自家用車での避難訓練の実施と規模の拡大を新潟県に要望していく。また、スムーズな車両避難の誘導や渋滞の解消ができるよう警察等の関係機関と連携した訓練を検討していく。

・避難経由所の周知について

【課題】自家用車避難において、避難経由所に向かうところ直接避難所に向かった方がいた。なぜ避難経由所を通るかという周知が不足していた。

【対策】訓練参加住民に対して、避難経由所を設置している目的をしっかりと説明するなど、直接避難所に行かないような対応を検討していく。

・幅広い年齢層の訓練参加について

【課題】地区役員中心の参加となる地区が多く、若年層の訓練参加が少ない。

【対策】避難先で原子力防災に関するイベントの開催や、希望者のみ避難先まで避難するなど、参加しやすくなるような方法を検討していく。

(4) 安定ヨウ素剤の緊急配布訓練

・緊急配布方法について

【課題】訓練のため全員安定ヨウ素剤を持っていない想定で対応するため、バス避難集合場所等での人員不足の課題がある。実災害時の大人数への配布を想定した緊急配布手順の簡略化を検討していく必要がある。

【対策】配布手順の簡略化及び効率化を図るために大人数への配布を想定した訓練とするなど配布手順の課題を洗い出していく。

・緊急配布場所での訓練実施について

【課題】安定ヨウ素剤の緊急配布場所候補を決定したため、訓練を行う必要がある。

【対策】緊急配布場所の設営から配布までの一連の流れを想定した訓練を行い、緊急配布に係る課題を洗い出していく。

(5) スクリーニング・簡易除染訓練

・スクリーニングポイントの周知について

【課題】自家用車での参加者に対してはスクリーニングポイントまでの地図を渡していたが、慣れない土地であり、一度通り過ぎてしまったという参加者もいた。実災害を想定し、必ずスクリーニングポイントを通過できるような誘導方法を検討する必要がある。

【対策】新潟県にスクリーニングポイントへの誘導方法の検討を求めるとともにUPZにおける原子力災害時の避難行動に関する周知を継続していく。

12 訓練の様子

		
<p>本部運営訓練</p>	<p>本部運営訓練 (テレビ会議)</p>	<p>保護者引渡し訓練 (小学校)</p>
		
<p>保護者引渡し訓練 (保育園)</p>	<p>引き渡せなかった児童のバス避難</p>	<p>避難所での受付 (QRコード)</p>
		
<p>福祉車両での避難 (車椅子)</p>	<p>ストレッチャー搬送</p>	<p>スクリーニング訓練 (車両検査)</p>
		
<p>船舶避難訓練 (巡視船)</p>	<p>船舶避難訓練 (LCAC)</p>	<p>ヘリコプター避難訓練</p>

13 訓練参加者数

10月27日(金)、28日(土)本部運営訓練等

		本部員	連絡員・機材班	リエゾン	オブザーバ	防災・原子力課 (運営・監査室)	合計 (延べ人数)
本部運営訓練	10月27日	15	30	2	1	15	63
	10月28日	14	0	2	0	13	29
OFC運営訓練	10月27日	2	5	-	-	-	7
	10月28日	3	5	-	-	-	8
合計		34	40	4	1	28	99

11月8日(水)、9日(木) 学等の保護者引渡し訓練

訓練会場		児童・園児			職員				合計	うちバス 乗車
		引渡し	バス避難	計	市本部	教職員	教職員 (バス乗車)	計		
横原小学校	11月8日	145	13	158	3	18	3	24	182	16
新道小学校	11月9日	73	92	165	3	1	16	20	185	108
合計		218	105	323	6	19	19	44	367	124

10月31日(火)、11月1日(水)学校等の保護者引渡し訓練

訓練会場		児童・園児			職員				合計	うちバス 乗車
		引渡し	バス避難	計	市本部	保育士	保育士 (バス乗車)	計		
はらまち保育園	10月31日	54	30	84	5	2	12	19	103	42
高田保育園	11月1日	38	28	66	2	5	10	17	83	38
合計		92	58	150	7	7	22	36	186	80

10月28日(土)、29日(日)住民避難訓練

訓練項目		西中通 10/28		中通 10/28		二田 10/28		高田 10/29		合計
住民避難訓練 等	バス 船舶(LCAC)	LCAC (バス2台)	55	バス(2台)	61	バス(2台)	53	バス(2台)	62	231
	船舶(巡視船) ヘリ・自家用車	巡視船 (バス1台)	33	ヘリ(中止バス 1台に代替)	29	ヘリ2機 (バス2台)	16	自家用車 (20台)	46	124
	消防団	11分団	17	12分団	10	19分団	13	5分団	15	55
	計	-	105	-	100	-	82	-	123	410
市職員 等	広域避難先講師	妙高市	5	湯沢町	5	村上市	4	上越市	6	20
	緊急時地区派遣隊	-	3	-	3	-	3	-	3	12
	バス避難支援隊	-	9	-	9	-	8	-	6	32
	防災・原子力職員	-	0	-	1	-	1	-	1	3
	本部等市職員 ※ 合計のみ	-	-	-	-	-	-	-	-	21
	計	-	17	-	18	-	16	-	16	88
合計		-	122	-	118	-	98	-	139	498

10月28日(土)住民避難訓練

屋内退避訓練 約64,000人

※RS.4.1現在 UF2内人口

訓練合計

10/27・28	99	本部
10/28・29	498	住民避難
10/31・11/1	196	保育園
11/8・9	367	小学校
合計	1150	

【参考】R4訓練合計

10月24日	49	本部
10月25日	130	学校等
10月26日	241	学校等
10月29日	287	住民避難
11月8日	89	学校等
合計	796	

14 参加者からの意見等

(1) 住民避難訓練

No.	地区	意見等
1	西中通	多くの人に参加してもらい、不具合があればその都度改善してほしい。
2	西中通	雪等で避難の確実性には疑念がある。
3	西中通	時間がかかり過ぎだと思った。
4	西中通	QRコードよりマイナンバーカードを使用した方がよい。
5	西中通	人数確認と点呼をもっとはっきり案内した方がよい。
6	西中通	エアクッション艇では外が見えず、方向がわからなくなり不安になった。
7	西中通	実際には訓練のようにうまくいかないのではないかと。
8	西中通	若い人の参加が少なく年配の人が多いため、待ち時間や移動でとても疲れる。
9	西中通	直接避難所まで行けるとよい。
10	西中通	避難の流れを理解することができた。
11	西中通	PAZ、UPZ では理解が難しいため、日本語で区別した方がよいと思う。あるいは半径5キロ以内など具体的な数字で案内するほうがよいと思う。
12	西中通	エアクッション艇避難は高齢者には無理なのではないかと思う。
13	西中通	もっと丁寧な説明、具体的な説明があると良かった。
14	西中通	船に乗る経験が出来て良かった。
15	西中通	大勢の人が一度に避難しようとするのにまとめる人が不足していると感じた。いかに落ち着かせられるかが鍵だと思う。
16	西中通	天候に恵まれてうまくいったと思うが、悪天候を想定した訓練も必要。
17	西中通	なぜ高速 IC から離れた避難経路所を経由するのかわからなかった。
18	西中通	到着時間の説明が少なかった。船内での過ごし方を工夫してほしい。
19	西中通	今回、実際に船に乗っての避難ができたが、人によっては閉所恐怖症などもあるためスムーズにはいかないものと感じた。
20	西中通	自家用車での避難訓練(避難経路地まで)も経験したほうがよいと思った。
21	西中通	QR コードによる受付がスムーズにいいと思った。船での輸送は大勢運べるため、有効である。妙高は遠いと感じた。

22	西中通	東日本大震災の際には、行政から住民への情報が全くなかった。現地に居るのに、数日経ってからようやく報道で色々なことが分かってくる、という状況は堪え難い経験であった。
23	西中通	LCAC での移動も揺れがひどかったが、輸送艦に移ってからのゆったりした大きな揺れの方がこたえた。
24	西中通	原発の存在には反対だが、電気を確保するために必要なものであるということも分かっているのでジレンマを感じる。将来、子や孫たちには負の遺産として残すことになるのではないかと思っている。
25	西中通	実際の災害時にバスでの移動が可能なのか疑問に感じた。当然渋滞は発生しているだろうし、地震であれば道路に被害が出て走行できない可能性が高い。
26	西中通	大変疲れた。船の揺れが想像以上であった。若い世代の訓練への参加が非常に少ないので、参加できるような仕組みを考えてもらいたい。
27	西中通	中央海水浴場は原発が丸見えで、むしろ原発に向かって出航する感覚である。避難住民の感情を考慮した乗船場所にすべきである。
28	中通	自家用車避難の場合、避難先の駐車スペースは広いのか。バス避難の集合場所についても集まりやすいようにしてほしい。
29	中通	自分で歩けない人などを把握して、対象に訓練も必要では。
30	中通	湯沢のどこに避難していいかわからない。地域に周知してほしい。
31	中通	避難経路所と避難所の2か所で受付が必要な理由がわからない。
32	中通	受付を簡略化して時間がかからないようにしてほしい。
33	中通	雪深い湯沢に避難することが疑問。雪が少ないところに避難所を。
34	中通	スマートフォンがない人には事前に避難者カードを配付するべきでは。
35	中通	避難することができない人を受け入れるシェルターが必要では。
36	中通	避難所までのルート、状況をどのように周知するのか。
37	中通	受付アプリのわりに受付に時間かかる。入力もなかなかうまくいかなかった。
38	中通	実際に地震が起きたときにヘリは飛ぶのか。
39	中通	自力避難困難者を想定しているのに受付が難しい。
40	中通	自宅にいないときの避難をどうすればいいのかわからない。
41	中通	施設入居の家族やペットの避難はどうなるのか心配。
42	中通	本人確認が3回あったが、2回でいいのではと思った。

43	中通	逃げる方向を考えるために風向きの情報が欲しい。
44	中通	アンケートを集約したうえで、振り返りなどを町内会長も含めて行ってほしい。
45	中通	自家用車で避難する際に、どのようにどこへ行くのか、注意点などの情報発信を。
46	中通	避難先を湯沢のほかにも増やすべきでは。
47	中通	避難の流れがわからない。どこで受け入れてもらえるのか知りたい。
48	中通	アンケートにスクリーニングの項目があるのに説明がない。受付以上にスクリーニングは時間がかかるはずなので訓練に加えてほしい。
49	中通	これまで災害での避難経験が無い。実際の避難はこんな余裕はないと思うが、良い経験にはなった。
50	中通	指定避難先が実際に見ることができて良かった。若い住民への参加の働きかけが必要ではないか
51	中通	ヘリコプター避難が中止となったが、簡単に中止しない方がよいのでは。バスの乗車人数の確認に時間を要していたのでスムーズにしてほしい。湯沢町は中通地区の風下となる。避難地として不適切ではないか。市内でも5キロ圏内の住民が中心の避難訓練だが、広域の住民が同時に避難することになると思う。そうした訓練も必要ではないか。
52	中通	広域住民が一斉避難する際、大人数の流れで避難が本当に可能なのか。湯沢町が適切な避難地なのか疑問がある。条件の悪い冬季、とくに積雪時の避難訓練も必要だと思う。
53	中通	曾地の住民だが、スマートインターを新設してもらいたい。そこから高速道路で避難したい。
54	中通	災害時は自家用車で避難する住民が大半だと思うが、バス避難が本当に有効なのか。今回の避難訓練は単に事務的な訓練ではないのか。自家用車1,000台にGPSを搭載し、避難の流れを記録する訓練なども実施してはどうか。
55	中通	あくまで訓練なので、時間短縮できないか(15時ぐらいには終了するよう)。
56	中通	避難訓練を体験できてよかった。持ち出す荷物の準備ができてよかった。訓練で防災意識を高めることができた。高齢の母がいるが、バスに乗車し避難するのは困難だと思う。
57	中通	体が不自由な人の受け入れ先は、私たちと同じなのか。
58	中通	曾地スマートインターの新設をお願いしたい。家族単位での避難訓練が大切だと思う。
59	中通	今回の避難訓練が役立てられるよう家族で話をしたい。

60	中通	スマートフォンが使える人には避難者アプリは有効だと思う。設定の説明文も分かりやすかった。冬季の避難訓練も必要だと思う。
61	中通	実際の災害時とは状況が異なると思うが、今回の訓練は良い経験となった。
62	中通	本当の災害時は今回の休日訓練のようにスムーズにはいかないと思う。平日に訓練してもよいのではないか。
63	中通	集合場所の受付で時間を要していた。中通地区が風下の湯沢町方面へ避難するのは疑問である。避難所の受付はスムーズでよかった。
64	中通	湯沢町の中の道が狭いが、雪のとき、大型バスは通れるのか。
65	中通	ヘリ避難に期待していた。群馬との県境の天候で飛ばないとのことだったが、飛ばない可能性が高いのであれば、そのことについても事前周知が必要。
66	中通	群馬からヘリが飛ばなければ、違うところから飛ばすようにすべき。
67	中通	地震の場合は、道路が利用できなくなる可能性が高いので、大型バスの移動は厳しいと思う。
68	中通	中通地区は、湯沢へ避難するが、風向きの関係で、早く避難する必要があると思う。そのためのヘリ避難と思っていたが、今回のような状況であれば、違う方法をきちんと検討してほしい。
69	中通	広域避難中に原発の情報などを職員から報告した方がいいのではないか。
70	中通	ヨウ素剤の服用の説明がおろそかだった。紙だけでなく、夜間などの状況も考え、きちんと説明する必要がある。
71	中通	バス避難の場合、運転手は一人でもいいのか？何かあったときのために、2名以上いるべき。
72	中通	QRコードだと、上手く使えない人が多い、原始的なやり方も合わせて、スムーズにする必要がある。
73	中通	バス避難が必要か疑問。乗用車を多く用意して避難の方が早いのではないか。
74	中通	避難経路の途中で原子力発電所に近づくようになっており、適切か疑問。
75	中通	事前連絡ではヘリに小学生以上が搭乗可だったのに、急遽不可になった。
76	中通	避難要支援者名簿も事前に修正が必要だった。
77	中通	冬と冬以外で避難ルートを変えないと現実的ではない。
78	中通	柏崎版マイナンバーカードのようなものを使用すると良いのではないか。(地区名など)
79	中通	このような事故が想定される原発であれば、正直無い方がいい。

80	二田	前回の訓練はバスだったが、今回はヘリでいい体験をさせていただきました。少人数だったので参加者が多くなるよう私どもからも指導したいと思います。また、災害がないことが一番いいが、あったときのために、こうするというを確認していきたいです。
81	二田	訓練を通じて危機感を自覚できました。いろんな人が体験できればいいなと思います。
82	二田	原発は一刻を争います。今日はヘリでの避難だったが、いろいろな避難の選択肢があれば良いと思います。前にも訓練参加したが、いざとなると混乱してしまうので、普段から考えておく必要があると思いました。
83	二田	高齢者のバスまでの移送をどうするか、いざという時にどうするか町内会で考える必要があると思います。
84	二田	とても楽しくて、参加できて良かったです。
85	二田	ヘリに乗れて良かったです。集合場所での受付時に QR コードで表示をするのができない方が多く、自分のスマホで入ろうとするとエラーとなり、結局紙で受付する方が多くいました。QR コードの表示がテーブルにはありましたが、もっとわかりやすいところに表示があれば、もう少しスムーズにできたと思います。
86	二田	受付に時間がかかりすぎた。スーパーのレジの様に素早く読み取れるシステムにすると良い。
87	二田	QR コードの受付は時間がかかった。慣れが必要と感じたため、訓練参加者だけではなく市民全体が慣れるように幾度となく QR コードの出し方の実践が必要。
88	二田	大多数の方は車で移動することになるが、どこに避難すればよいのかなど、住所だけではなく建物の様子を情報提供して、災害が起きた時に現地で迷わない様に車をスムーズに入れられる体制や駐車しやすいように駐車許可証を発行するなどしてもらえれば安心して避難できると思う。
89	二田	QR コードの登録ができなかった。市役所に問い合わせしても最終的にできなかったので事前に登録できなかった時の対応方法を教えてもらったほうが良い。
90	二田	アンケートに経路所を経由して避難所に行くことが理解できたかという項目があったが、私自身は経路所を経由して避難所に行くことを事前に聞いていなかったと思われるため理解できなかった。事前に説明してもらえれば理解できたと思う。
91	二田	有事における人命を優先した市民ファーストの訓練とはかけ離れたものだと感じた。私は、有事の際にはこの避難手段は利用しない。
92	二田	職員のマンパワーが絶対的に足りない。不安を払拭するためには、もう少しきめ細やかな対応が必要であるため、人数を増やすなど日ごろからの対応をしてもらいたい。

93	二田	職員は増やしてもらいたい。スマホの受付は手間取っているのもっと簡単にできるようにしてもらいたい。紙受付の方が早く受付が終わっている。
94	二田	有事のことを考えて、地元への周知が必要と感じた。
95	二田	もう少し早い時間から始めて、明るい時間で終わるようなスケジュールにってもらいたい。
96	二田	乗るバスが直ぐにわかるようにしてもらいたい。
97	二田	足の不自由な人やお年寄りなど身体が思うように動かない人のことも考えた方がよい。
98	二田	もっと訓練を重ねて、さらにスムーズに避難できるように出来たら良い。
99	二田	ミスプリントがある。避難者が迷わない様にミス無くしてほしい。
100	二田	早い避難が大事なので、色々な手段があるのはいい。
101	二田	ヘリで避難したが、乗降場所までの移送に課題がありそう。
102	二田	対応に不安があります。しっかりと総括して来年以降に活かしてください。
103	二田	避難経路所から避難所へ行くバスの誘導案内が不足していた。
104	二田	避難方法の選択が個人の判断で良いのか行政の判断に従うのか不安。
105	二田	集合時間からバス出発まで長く待たされた。説明不足だった。
106	二田	三条を村上に想定して訓練できないか。時間が掛かりすぎる。
107	二田	地震を何回も経験していますが、高速道路が今回のようにスムーズに通れるとは思いません。災害＝逃げるという考えだけではだめなのではないか。
108	二田	避難場所は大型バスが安心して進入できる場所にしてほしい。
109	二田	今回はヘリで避難したためスムーズだったが、実際自家用車での避難となると大雪などと重なると実効性に不安がある。
110	二田	県と市の職員のやり取りがうまくいっていないように感じた。
111	二田	QRコード受付の結果がリアルタイムで本部が確認できるとよい。
112	二田	バス受付に時間が掛かっており、避難が間に合わないと感じた。
113	二田	訓練だから課題はあると思うが、途中途中での待ち時間が多い。
114	二田	他の避難先と比較して、村上市だけ遠いと思うがなぜか。

115	高田	災害が発生して、自家用車で避難となった場合、高速インターで渋滞が発生するのではないか。
116	高田	自己判断で富山に行くことは可能か。
117	高田	風向きの情報を確認しながら、自分か向かう避難所が安全なのか、冷静に行動・判断しなければならないと感じた。
118	高田	避難経由所を設けた明確な理由が分からない。何かあれば避難所(三和保健センター)に直行すればいいと勘違いする人もいると思う。
119	高田	避難所(三和保健センター)の場所が分からず、迷った。カーナビに出てこなかった。
120	高田	バス避難の方は新潟工科大に行かなくてはならない。向陽町からだの距離がある。工科大内の案内が分かりにくかった。
121	高田	要支援者の方が参加していない。災害時スムーズに避難できないのでは
122	高田	スクリーニングポイントや避難経由所での案内・看板が不足していると感じた。道が分かりづらい。
123	高田	非常持ち出し品をリュックに入れてきたが、中身について詳細を教えてください。
124	高田	スクリーニングポイントではバス車体の検査のみだったため、バス車内でスクリーニングのデモを見せてほしかった。
125	高田	訓練を実施するためのシミュレーションが足りないのではないか。
126	高田	田舎は体が不自由な老人が多い。この人達の避難または所在確認をどうするかが最も大切かつ面倒である。この点を検討してほしい。
127	高田	訓練は必要だと思うが、内容等の見直し改善を行い継続していくことが大事だと思う。
128	高田	各地点の電波状況が悪かった。全体的に緊張感を感じられなかった。
129	高田	マイナンバーカードを使用すれば電波障害、操作ミスによる混雑を解消できるのではないか。
130	高田	今回は少人数での避難でしたが、現実はどうもいかないと思う。
131	高田	訓練には関係ありませんが、原発稼働前に道路等の5項目が早めに実施されることを願っています。
132	高田	雪、風雨などの環境と、バス集合場所に運転手が確実に来られるか不透明である。
133	高田	雨が降っていて汚染のリスクがあると思いますが、脱衣のタイミングについて案内がありませんでした。実際はどこで脱衣するのでしょうか。
134	高田	訓練の流れが十分に周知できていないと思う。

135	高田	避難場所まで遠くて行けない、町内にバスが来るようにしてほしい。
136	高田	今回の訓練に参加したことは貴重な経験だったが、今後の課題が多々目に付いた。訓練自体そうあることではないが要領が悪いように感じた。
137	高田	万一の事故避難を想定してもっと大規模な取り組みをしたらどうかと思う。
138	高田	各町内でもっとわかりやすく説明会を行うべき。

(2) 学校等における引渡し訓練

No.	小・保	意見等
1	はらまち	子どもたちが安心して待てるように声を掛けることができた。
2	はらまち	兄弟関係が同じバスに乗ったことで下の子が安心できていた。
3	はらまち	バスで降りたところに迎えに来てもらうのをしてみたい。
4	はらまち	その都度、人数確認や誰が帰っていないかなどをチェックして職員間で報告し合えて良かった。
5	はらまち	避難バックの中に乳幼児のミルクやおやつ等の準備まで気づかなかったが、今回のことでそこまで確認することができて良かった。
6	はらまち	クラス担任以外に玄関に職員がいたことで、バス乗車の間際のお迎えにもスムーズに対応できてよかった。
7	はらまち	訓練の放送後、すぐ窓をしめ、人数確認を行うことができたので、あらかじめ役割を決めておくと思った。
8	はらまち	市役所の方からいただいた訓練の流れをみて、職員の動き、園児の動き、担任、フリー保育士の役割分担をかき出し、職員間で何度か確認しあった。準備がよくできたことが良かった。実際災害がおきたときのことを想定し、子どもたち、職員共に真剣に参加できた。保護者も訓練のために仕事を切り上げ迎えにきてくれた方もいて協力にありがたく思った。訓練を通し、保育園出入口の一方通行、園児の雨具(マスク)を常にカバンに入れておくことも再確認できて良かった。
9	はらまち	事前に職員全員での打合せが行われて、一人一人の動きを把握できてよかったです。
10	はらまち	レインコートを着る時に困っている子どものところにフリーの先生が補助に入ることができよかったです。
11	はらまち	待ち時間が長かったが、防災に関する紙芝居を読み退屈にならないようにできたのは良かった。
12	はらまち	実際に訓練ができたことで流れだったり、動きだったりのこまかい所まで確認できたのが良かった。

13	はらまち	普段行事の時駐車場が混み合わないよう、玄関に入ってくる前にマイクで呼んでスムーズに引き渡しができたこと。
14	はらまち	出入口を一方通行にしてあること。(今後も呼びかけ徹底できるようにしたい)
15	はらまち	災害の際に小さいクラスは極力オムツがいいと思った。トイトレ中の子どもたちは何時間もバスに乗ってられない。
16	はらまち	メールを見ていない人への電話連絡が実際に多く出てきて大変だと思った。
17	はらまち	雨具を用意していない子もいて、訓練がなくても常にリュックの中に入れてもらうよう保護者にもお願いするべきだと感じた。
18	はらまち	午前中や給食時など、他の時間帯での訓練はどうか。いろいろな時間で試すのもよいと思う。
19	はらまち	雨具や長袖、長ズボン、帽子を身につけるのが暑いので、夏には訓練が子どもにとって厳しい。実際には季節も関係ないであろうし、命を守る事が優先なのだろうが。待機場所や給水などの配慮が不可欠。
20	はらまち	保護者の迎え時、車の一方通行が徹底できていなかった。周知不足。
21	はらまち	誰がバスに乗るのか、人数だけでなくメンバーも全職員で周知するのが大変だと感じた。
22	はらまち	今回は事前に誰が訓練に参加して、誰が参加しないかわかった状況での訓練だったので引き渡しもスムーズにできたが、本番はそうもいかないのでは、人数把握や引き渡しの注意点、バスでの避難になったらその子や家族への対応をもう一度自分でも理解をしたいと思います。
23	はらまち	今回は避難先まで行ってないが、行った先でのことが心配
24	はらまち	雨具の着脱、人数確認など担任だけでは間に合わないため、緊急時の役割分担
25	はらまち	実際に災害が起きたときに保護者に受け渡す時、子どもにくつをその都度かはかせている時間がないのではないかと感じた。迎えが来ないとしても室内で外履きに履き替えていたほうがスムーズなのかもしれないと思う。
26	はらまち	職員の家族の避難が気になる。
27	はらまち	職員で他園にお子さんを預けている場合、そちらへ迎えに行かなくてはならなくなるが、どこまで自分の園の役割をこなして退勤し、残った職員だけでどう動くかを考えておかななくてはならないのではと、本当に事故が起きた時のことを想定するとそういう事まで心配になる。
28	高田	子どもたちはクラスで待機し、引き渡しの時に、呼びに行く役割の職員が2人いてスムーズだった。
29	高田	バスに乗って避難する子ども達は遊戯室から外へ移動し、保護者の引き渡しは玄関で行ったのでスムーズに避難をすることが出来て良かった。

		放射性物質という目に見えない者に対する避難であることを意識し動いてみることで、本当に災害が起きた時の怖さをイメージすることができ、訓練に参加でき良かった。
30	高田	園オリジナルのシナリオも作って訓練に参加した。情報がしっかり入ってくるまではむやみに園児を集めて大人数の集団にせず、クラス単位での保育を続けることで混乱を防ぐ。
31	高田	トイレに連れていく、カラー帽子をかぶせるなど、園独自の細かな配慮は必要。
32	高田	地震→原子力災害の場合の訓練は必要。
33	高田	引き渡し受付とバスに乗車する子の避難口をわけたことで混乱とまちがいを避けられた。
34	高田	さくら連絡網にある程度送信文のひな形を作っておく必要はある。
35	高田	水と食料の運搬方法について
36	高田	職員同士での情報共有をしっかりと行うことの大切さを改めて知った。
37	高田	放射性物質がなぜ怖いかなどの子どもに伝えることが難しいと思った。不安を感じる子どもたちにどのようにどの程度まで伝えるべきか？
38	高田	本当に事故が起こった際はもっともっと色々なことに時間がかかるという意識が職員自身に欠けている。(情報が入ってきにくい、バスの到着時刻は交通渋滞で遅れる、保護者の迎えも遅れるなど)想像力をフルに働かせながら対応する必要がある。
39	高田	緊急時に引き渡しカードの形状は使いにくく、一覧表状のもので対応している。カードの内容が全て一覧になるよう表の改訂が必要。
40	高田	職員のヘルメットがない。
41	高田	子どものマスクのサイズの確認
42	高田	玄関に出す表示(地震と水害の際の避難先表示しか作っていなかった)
43	高田	各クラスで待機する時間が長く、周りの様子が見えなくて不安だった。もう少し放送をこまめに入れてもらえると良かったと思う。
44	高田	持ち物の再確認(必要物品、分担)→バスに乗る際に1号車と2号車に分かれたが、安定ヨウ素剤は乗車人数分ごとに分けて持っておらず、ひとまとめになっていた。車中で服用指示が出た場合に困る。本当に持ち出す必要のある書類を精査する。(重すぎて持ち出すのが大変。子ども優先にしたいため。)
45	槇原小	実際に想定して、緊張感の中で取り組めて良かったと思います。
46	槇原小	職員の役割分担の細分化ができていた。

47	榎原小	実際に訓練で動いてみるのが重要。紙面だけではやはり分からないことが多い。
48	榎原小	子どもたちの動きがスムーズであった。
49	榎原小	原子力災害に関わる避難方法(マスク、帽子、手袋の着用、カーテンや窓を閉めるな)を理解できた。保護者への引渡し訓練を積み重ねたことでスムーズに行うことができた。
50	榎原小	カーテンを閉める、窓や換気扇も・・・など細かいことがわかってよかった。市の防災無線も本部に持っていくなど校内の動きを確認できたことがよかった。車両と人身、車両同士の接触事故が無い様にと駐車スペースや位置を検討し、1台ごとに指示をして、事故なく終了できた。(誘導車両約 160 台)
51	榎原小	校内での引き渡しを再度確認する。
52	榎原小	悪天候の際の保護者の迎え方を想定する必要があると感じた。
53	榎原小	火事・地震災害での引渡しは、近隣家庭は徒歩で迎えに来ることになっているが、原子力災害の場合は、全家庭、車での迎えになる。そのため、今まではさほど渋滞はなかったが、今回は春日通りまではなかったものの学校前道路に列が出来た。渋滞が出来るのは仕方ないが、車の寄せ方が全学校で統一されているとよいと思った。Ex)ハザードをつけ端に寄る等
54	榎原小	降雪時、車の乗り入れ場所はない。道路に渋滞は避けられない。校門前を通るドライブスルー方式になるか。
55	榎原小	今回の引渡し訓練では、保護者がわりと早く迎えに来たと思う。実際の災害時にはもっと時間がかかると思うし、バスでの避難児童が増えるのではないかと思う。榎原小の立地上、道路がせまく、交通渋滞が起きることは予想されることが課題だと思う。
56	榎原小	慣れていないのもあり、保護者への引き渡しでバタバタしてしまう。カードを持ってこなかった保護者と子どもがどこへ下校するのか書く用紙があるとよいと思いました。
57	榎原小	本当に原発事故発生し、保護者の迎え車両が集中し、誘導員も居ない状態の時に事故なく、保護者同士がゆずり合い駐車や歩行移動ができるのかどうか心配の面がある。
58	榎原小	市とどのように連携をするかが分かり、大変有意義だった。何年かに一度は継続して行う必要があると感じた。防災ガイドブック原子力災害編(R5.10月改訂)がとても役に立つと感じた。家庭への啓発も行う。
59	榎原小	実際に災害が起きた時、避難用のバスがスムーズに配車されるかが不安(台数の確保)
60	榎原小	勤務をしている職員も市内在住者は我が子を迎えに行く場合も出てくる。少ない人数でも落ち着いて児童を安全に避難誘導できるよう訓練は今後も必要であ

		る。有意義な訓練でした。ありがとうございました。
61	槇原小	冬場、雨天時、悪天候時の動きに対しての対応を考えたら良いと思う。今回の訓練で保護者も全体の流れは理解出来たと思うので、次回案内標識は最低限のもの(外・内)とし、誘導員なしで引渡し訓練を実施してみる必要あると思います。
62	槇原小	担当部内ごとのマニュアルを作っておく必要有り。
63	新道小	今回初めての参加だった。災害が起こった際、引渡し、バス乗車・避難のイメージをつかむことができた。
64	新道小	避難までの手順、役割分担等を理解することができた。今後に生かしたい。
65	新道小	避難訓練は、火災、地震・津波、不審者対応のみで行ってきたが、今後は原子力災害も含め、複合的な避難訓練の必要性を確認できたよい機会となった。
66	新道小	自分が住む地区における原子力防災訓練への参加が必要だと感じた。参加してよかった。
67	新道小	今後の引渡し訓練に活かされるが多かった。今回の訓練を参考に、当校の引渡し訓練の見直しを行っていく。
68	新道小	今回は、タイムスケジュールがある程度決まっていたので、保護者の早めに引渡しに来られていた。実際に起きた場合、どのような対応になるかについて不安が多い。
69	新道小	引渡し中止後に保護者が来られたときの対応はどのようにしたらよいのか。バスが来るまでの間であれば引渡しは可能なのか、それとも連絡通り中止なのか。不明確な部分が多々ある。
70	新道小	地域住民、保育園・中学校との連携は必要ないのか。実際に起きたことを考えると、地域全体で行うことも必要なのではないか。
71	新道小	子を持つ職員の対応はどうなるのか。職場優先？家庭優先？
72	新道小	11月にはいろいろな行事が重なる月である。もし可能であれば、前年度のうちに引渡し訓練の日程候補日を示していただきたい。
73	新道小	今回はメールでのやりとりが中心だった。もう少し対面での打合せも必要であると感じた。